



第6回上田八木・金融政策サーベイ(2016年9月)の結果について

～追加緩和予想50%(その7割が利下げ予想)。長期金利の見通しはミックス。

発表日: 2016年9月16日(金)
上田八木短資株式会社

【調査の総括】

- 9月の金融政策決定会合においては、追加緩和を予想する先は50%ポイントと前回(7月調査)の57%ポイントよりも低下した。今回、緩和を予想した先のうち73%が金利面での引き下げがあると回答し、27%が量もしくは質の面での緩和を予想している。
- 金利見通しについては、3か月先の2年国債金利のDI(「上昇」-「低下」)が前回事業同DIよりも8%ポイント低下する一方で、10年国債金利については、DI(「上昇」-「低下」)が前回事業同DIよりも28%ポイント増加しており、正反対の動きとなっている。

【調査の概要】

調査方法	弊社と取引のある銀行、証券会社、保険会社、事業法人などの市場取引関係者(204先)
調査方法	日本銀行の金融政策決定会合における結果予想と、3か月先の金利見通し
調査方法	2016年9月13日～15日の3営業日間、電話等によるヒアリングにより実施
回答率	93.1% (回答者数190 先<Q1における回答者数>)

【調査結果】

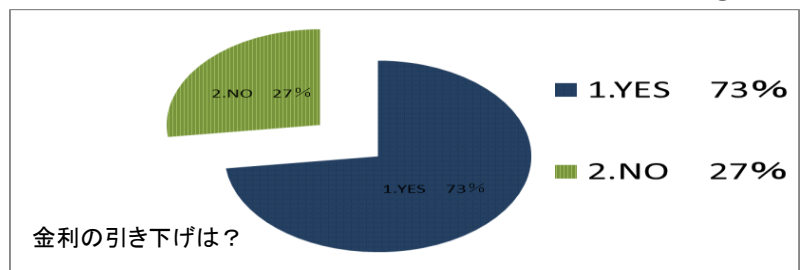
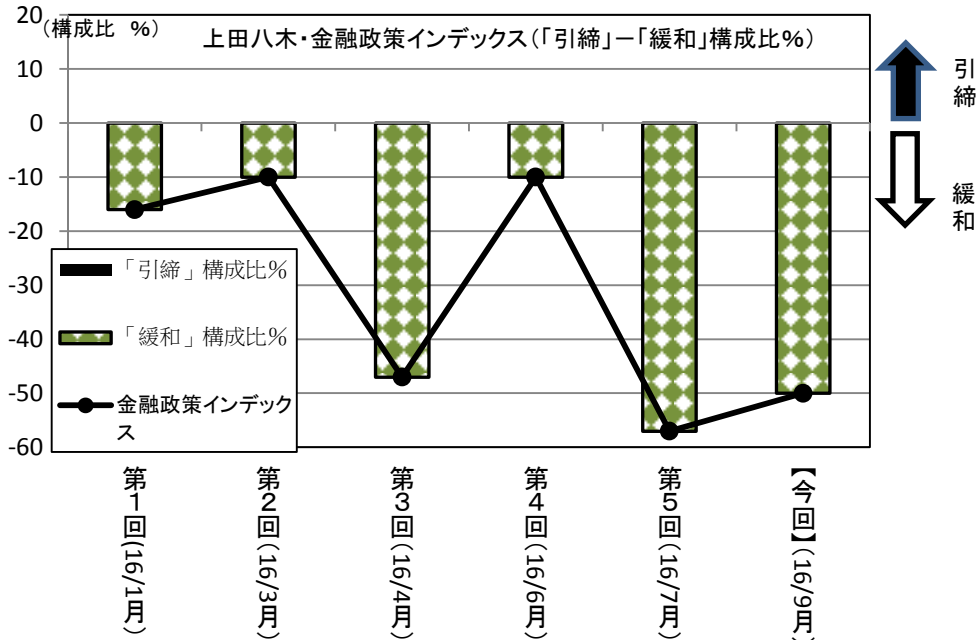
(Q1)日本銀行の次回の金融政策決定会合(9月20～21日)における決定について

回答者全体の50%が「緩和」とみている。「不変」とみる先は50%だった。「引締」を予想する先はなかった。

上田八木・金融政策インデックス(「引締」-「緩和」構成比%)は、▲50と、前回対比7%ポイント上昇となった。

前回(7月調査)との比較では、「緩和」とみる先が▲7%ポイント、「不変」が+7%ポイント。

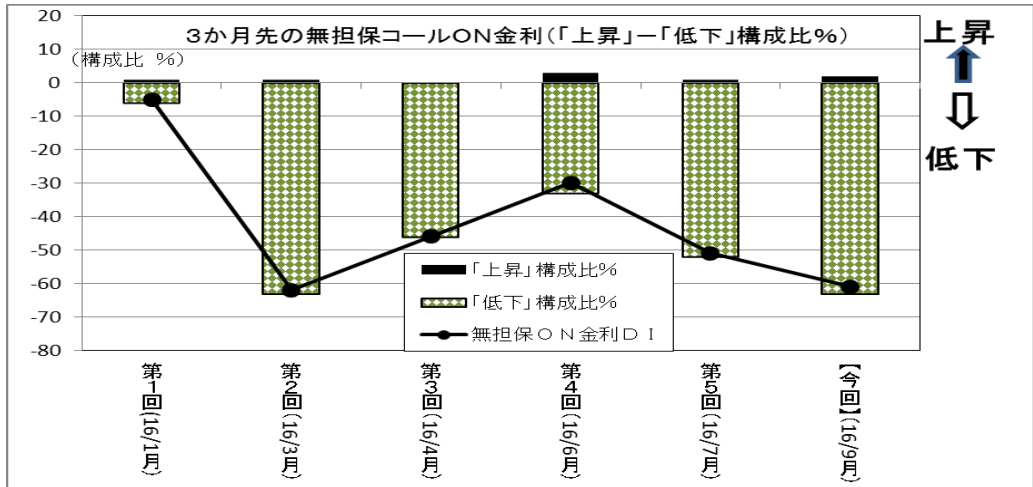
【今回緩和と回答した方について】金利引き下げの有無について回答を求めたところ、73%の先が引き下げありと回答。



(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の63%が「低下」を予想。「不変」の先は35%、「上昇」とみている先は2%だった。

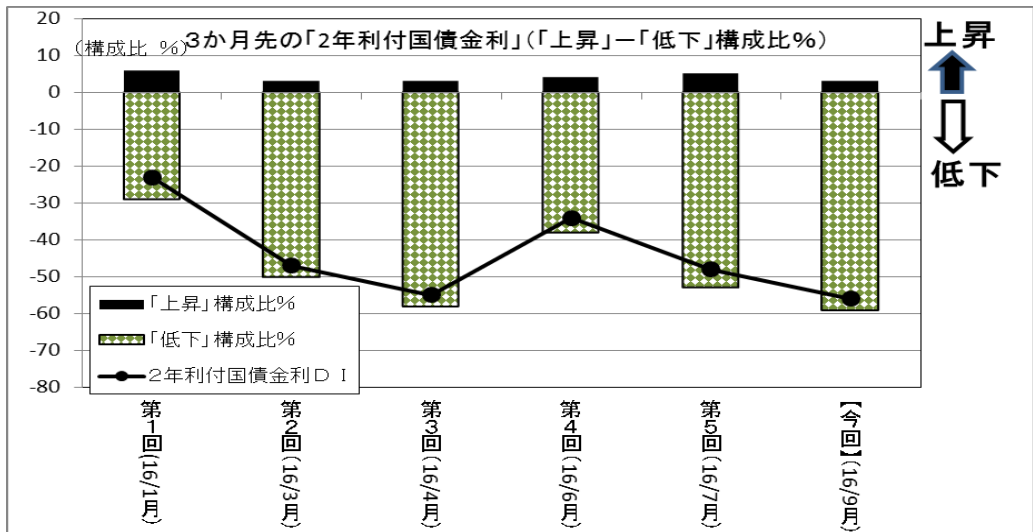
前回(7月調査)との比較では、「低下」とみる先は+11%ポイント(前回52%→今回63%)。「不変」とみる先が▲12%ポイント(前回47%→今回35%)。「上昇」とみる先が+1%ポイント(前回1%→今回2%)。



(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の59%が「低下」を予想。38%が「不変」とみている。「上昇」を予想した先は3%であった。

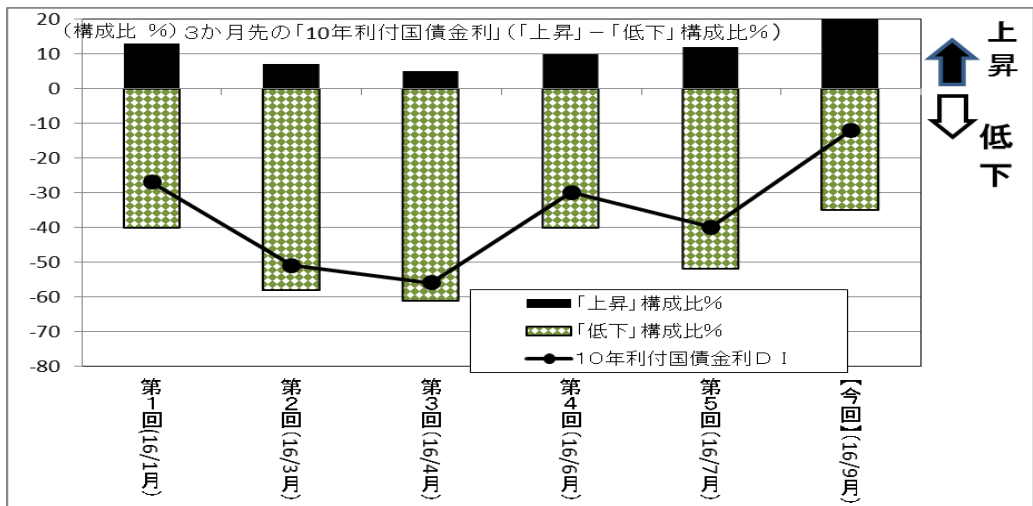
前回(7月調査)との比較では、「低下」とみる先が+6%ポイント(前回53%→今回59%)。「不変」とみる先が▲4%ポイント(前回42%→今回38%)。「上昇」とみる先は▲2%ポイント(前回5%→今回3%)。



(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の35%が「低下」を予想。42%が「不変」とみている。「上昇」を予想した先は23%。この結果、DIは過去6回で最も高くなっている。

前回(7月調査)との比較では、「低下」とみる先が▲17%ポイント(前回52%→今回35%)。「不変」とみる先は+6%ポイント(前回36%→今回42%)。「上昇」とみる先は+11%ポイント(前回12%→今回23%)。



【本調査に関する照会先】
企画部 島本、酒井 (電話 03-3272-0293)